

資料 4

第 3 回 総合教育会議資料

史跡山元遺跡について（シンポジウムでの要約記録）

村上市生涯学習課

1 史跡の特徴

- ・西暦 100 から 200 年頃の弥生時代後期を最盛期とする集落跡
- ・日本海側最北の「高地性環濠集落」。標高 40 m、周辺の田んぼとの高低差約 36 m
- ・山元遺跡は、集落と墓域で、濠（溝）で囲まれた集落からは掘立柱建物や竪穴住居
- ・土坑墓と埋設土器 出土した土器は「天王山式」で東北地方の弥生土器
- ・副葬品と考えられるものとして、ガラス小玉 68 点・青銅製の筒形銅製品（弥生時代の青銅器として日本最北）・小型の鉄器が、それぞれの土坑墓と埋設土器から出てきた
- ・北の文化の南限、北陸や西の文化の北限
- ・新潟平野を一望できる場所にある

以上をまとめると、山元遺跡は、東北地方の人々が住んだムラで、高地性環濠集落・青銅器・鉄・ガラス小玉という「西」の要素、続縄文式土器や埋葬方法に見られる「北」の要素を取り入れた、とても貴重な遺跡です。

2 今後の史跡保存・整備・活用についてのアイデア

- ・360° 一望できるように樹木の伐採
- ・散策や散歩ができる弥生公園
- ・植物観察会や植物を利用した体験イベント
- ・地域住民主体となった保存会を結成し、息の長い活動をして欲しい
- ・市民から山元遺跡を紹介するキャッチコピーを募ってはどうか
- ・国の補助金を活用した用地の公有化（80%補助あり）
- ・史跡の顕在化のための環濠の表面表示
- ・弥生時代を体験するイベントの開催
- ・秋の実りの時期に、収穫祭などのイベントをしてはどうか
- ・地元小学校との連携事業